

Goto Chuoh Hospital Proceedings

五島中央病院紀要

第 27 号



長崎県五島中央病院

目 次

1. 巻 頭 言 院長 竹島 史直	1
2. 令和 6 年度診療科別業績集他	3
1) 内科	4
2) 外科	6
3) オープンカンファレンス	6
3. 2024 年内科入院患者数	7
4. 2024 年精神科新来患者統計	9
5. 令和 6 年度診療業務実績	11
6. 各診療科別年間手術症例数	13
7. 救急患者搬送一覧	15
8. 令和 6 年度抗菌剤（注射薬）及び主要消毒薬使用概況	16
9. 当院の微生物検査の動向	23
10. 投稿規定	30

巻 頭 言

令和2年4月より病院長として赴任致しました竹島史直と申します。赴任以来早くも6年が過ぎ去ろうとしています。昨年は、当院における大きな変革の年となりました。当院の許可病床数は6病棟304床（一般230床、精神60床、結核10床、感染症4床）でしたが、近年の病床利用率の推移及び人口の将来推計を鑑み、急性期病棟を1病棟40床削減し、4月より5病棟264床にてスタートしました。削減した5階北病棟では、これを有効活用するため、ナースステーションを広く使いやすいように改修し、新たに2交替制に備えた看護師仮眠室、台風等災害時の帰宅困難職員や患者家族の控室、医療安全管理室、感染管理室、シミュレータなど研修室を設けるなどの活用案を基に今年度改修工事に着手する予定です。工事期間中は、病床の移動や、騒音などで入院患者さんにはご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご理解を賜れば幸いです。完成は、令和9年6月ごろを予定しています。

人事の面では、令和4年4月より3年間当院を支えてくださった河野完治事務部長が定年退職され、新たに柴田和昭総務課長が事務部長に昇任しました。また長崎県病院企業団の看護管理監であった貞方三枝子さんを院長補佐として当院に迎え、フレッシュな面々で新たなスタートを切りました。

昨年1月より当院では五島市の周産期医療を守る目的で、セミオープンシステムを開始しました。これは、当院の設備と人員を福江産婦人科医院に一部開放(セミオープン)するシステムのことです。妊婦健診などの妊娠中の管理を、福江産婦人科医院と協働で行い、当院が分娩施設となることで、それぞれの役割分担が可能となり、安全性と妊産婦の利便性を保つことができると考えています。

11月には、当院が中心となり、第47回長崎県地域医療研究会を長崎市において8日、9日の2日間にわたり開催しました。「地域へ集め、地域で育て、地域に残す」をテーマに、特にシンポジウムでは、どのように人材を確保し、育成し、定着させていくかについて活発な議論が交わされました。

コロナ禍の4年間、感染のリスクにより、対外的な行事を行うことができませんでした。このため住民の皆様とのつながりがやや希薄となっていた印象がありました。そこで11月22日に五島市との共催で市民公開講座を行いました。井上副院長と私が講師となり、「胃がん・大腸がんを五島市からなくそう」をテーマに講演を行いました。50名以上の市民の皆様の参加があり、好評を得ました。今後も様々なテーマで継続したいと思っています。また、12月6日には7年ぶりに五島中央病院健康祭りを復活させました。貞方院長補佐を中心に100名以上の職員が協力して実施いたしました。好天にも恵まれ、過去最高の200名以上の市民の皆様にご来場いただきました。終盤には、出口五島市長も来訪され、大変盛り上がりました。

今年度も6名の初期研修医が当院で研修中ですが、来年度もフルマッチであり、8名の大所帯となります。若さは、院内に活気を与えてくれます。今後も研修指導責任者の今西大介先生を中心に新しい力を育てていきたいと思えます。

さて、今年の干支は丙午（ひのえうま）にあたります。丙は陰陽五行の火陽にあたり、太陽の明るさ、情熱、生命のエネルギーをあらわすと言われていました。午は古くから人間と共に生き、人を助ける存在です。また健康や発展のシンボルともされているそうです。明るくエネルギーに満ち溢れた素晴らしい健康な一年になることをお祈り申し上げます。これからも五島市民の皆様や地域医療機関の先生方のご要望に応えられるように微力ながら精一杯頑張ってまいりますので、今後のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

院長 竹 島 史 直

五島中央病院業績集

令和6年度業績集

1. 内科

【論文】

1. Setoguchi D, Iwanaga N, Ito Y, et al. Neglected Pulmonary Infection Caused by *Exophiala dermatitidis* Misidentified as *Rhodotorula* spp. ”: *Mycoses* 2024 : 10 ; e13804
2. Nagai K, Tomari N, Egawa S, Koga Y, Itonaga H, Imanishi D, Yoshida S, Kinoshita I, Miyazaki Y, Tanaka A. Feasibility evaluation of a blood rotation system for efficient blood product utilization in remote island settings. *Vox Sang.* 2024 Jun;119(6):548-555.

【学会発表】

1. 野中文陽, 高木博人, 宮崎岳大, 江頭清美, 岩田将吾, 宮田潤, 津渡俊和, 竹島史直, 川上純, 前田隆浩. 離島における医療 MaaS を活用した遠隔医療の社会実装. 第121回日本内科学会総会・講演会. 東京都千代田区. 2024年4月13日
2. 高木博人, 野中文陽, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. GLP-1 受容体作動薬からチルゼパチドに変更し, 間欠スキャン式持続血糖測定 (isCGM) の経過を見た持効型インスリン併用2型糖尿病の3症例. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024年5月17-19日. 東京都.
3. 野中文陽, 高木博人, 江頭清美, 秋吉響子, 山内えり, 岩田将吾, 尾崎美千恵, 津渡俊和, 宮田潤, 竹島史直, 川上純, 前田隆浩. 離島における医療 MaaS を活用した遠隔糖尿病専門外来. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024年5月17-19日. 東京都
4. 高木博人, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. 循環不全から肝性脳症を呈し, 血液浄化療法を導入した脾腎シャントの1例 第69回日本透析医学会学術集会・総会 2024年6月7-9日. 神奈川県横浜市
5. 瀬戸口大地, 岩永直樹, 伊藤裕也, 吉田将孝, 武田和明, 井手昇太郎, 小佐井康介, 高園貴弘, 泉川公一, 柳原克紀, 迎寛. *Rhodotorula* 属と誤同定された *Exophiala dermatitidis* による呼吸器感染症の臨床的検討. 第72回日本化学療法学会総会. 2024年6月27日. 兵庫県神戸市.
6. 根間恒太朗, 高木博人, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. 急性経過の高カルシウム血症, 多発骨病変を呈した後腹膜原発悪性リンパ腫の剖検例. 第59回日本腎臓学会西部学術大会. 2024年10月5-6日. 兵庫県姫路市

7. 高木博人, 野中文陽, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. チルゼパチド投与による2型糖尿病患者の腎機能, アルブミン尿への影響. 第62回日本糖尿病学会九州地方会. 2024年10月25-26日. 福岡県福岡市
8. 瀬戸口 大地, 岩永 直樹, 伊藤 裕也, 吉田將孝, 武田 和明, 井手 昇太郎, 田代 将人, 小佐井 康介, 高園 貴弘, 泉川 公一, 柳原 克紀, 迎 寛. Rhodotorula 属と誤同定された Exophiala dermatitidis による呼吸器感染症の検討. 第68回日本医真菌学会総会. 2024年11月9日. 京都府京都市.
9. 澤 健一, 岩永 真太郎, 田島 和昌, 山元 勝悟, 竹島 史直. アルコール性肝炎の加療中にニューモシスチス肺炎による急性呼吸促拍症候群に至った1例. 第124回 日本消化器病学会九州支部例会. 2024年11月15-16日 鹿児島県鹿児島市
10. 高木博人, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. 離島腹膜透析診療への取り組みにおける, 3年間の療法選択状況の変化. 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 2024.11.16-17. 福岡県福岡市
11. 根間恒太郎, 瀬戸口大地, 山下耕輝. 無症候性のS状結腸穿孔により 広範な縦隔および後 腹膜気腫をきたした1例. 第347回日本内科学会九州地方会. 2024年11月17日 熊本県熊本市熊本県医師会館
12. 高木博人, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. 血栓性微小血管症(TMA), 急性腎障害を呈した抗リン脂質抗体症候群および悪性高血圧の1例. 第56回九州人工透析研究会・総会. 2024年12月15日. 長崎県長崎市
13. 小野泉, 高木博人, 村上達樹, 竹島史直, 西野友哉. 脾腎シャントを背景にした高アンモニア血症が顕在化したBRASH症候群の1例. 第346回日本内科学会九州地方会. 2025年1月27日. 福岡県久留米市
14. 三宅泰平, 山下耕輝, 瀬戸口大地. 肺癌によるがん関連静脈血栓塞栓症として門脈血栓症を発症した一例. 第65回肺癌学会九州地方会. 2025年2月8-9日. 福岡県福岡市

2. 外科

【論文】

なし

【学会発表】

齋藤 健, 古賀 洋一, 北島 正親, 千早 啓介, 長置 健司, 伊藤 裕司, 井上 啓爾
 経口抗凝固剤服用による自然発生的な腹腔内出血の1例
 第79回日本消化器外科学会 下関 2024年7月19日 79

井上啓爾、北島正親
 胸腺腫 typeB3 との鑑別が困難であった胸腺癌の一例(会議録)
 第41回日本呼吸器外科学会 軽井沢 2024年5月21日

座長

井上啓爾

一般演題（口演）131

地域医療：地域医療における外科

第86回日本臨床外科学会 宇都宮 2024年11月23日

令和6年度 五島中央病院オープンカンファレンス 開催実績表

場所：五島中央病院 2階 講義室

回	開催日	演 題	講 師	参加者数		
				院内	院外	計
第150回	8月27日 (火)	高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下・栄養改善研修会① 『高齢者に対する口腔ケアとオーラルフレイル』	米山歯科医院 院長 米山 須弥也 先生	17	18	35
第151回	9月17日 (火)	高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下・栄養改善研修会② 『摂食嚥下障害の評価の実際(体験、見学)』 『その人らしく食べることをどのようにサポートするか』	五島中央病院 耳鼻咽喉科 松本 浩平 先生 五島中央病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 久保 桂 先生	18	35	53
第152回	10月15日 (火)	高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下・栄養改善研修会③ 『高齢者の栄養管理と嚥下食の工夫』	五島中央病院 栄養科 管理栄養士 江頭 清美 先生	19	10	29
第153回	1月28日 (火)	認知症抗体治療薬の現状 ～早期発見の重要性をいま一度考える～	佐世保中央病院 精神保健福祉士 日和田 正俊 先生	26	16	42
計				80	79	159

令和6年 内科入院患者(令和6年1月～12月まで)(1937例)

(入院延べ総数、1患者1病名 主に新患紹介台帳・画像レポート・主治医に基づいて)

消化器(659例)		虫垂炎	4	大動脈瘤(解離性など)	8
食道癌	4	憩室出血	19	下肢動脈狭窄・閉塞	5
胃癌	34	大腸憩室炎	6	肺塞栓症	3
大腸癌	47	好酸球性腸炎	1	深部静脈血栓症	2
肝細胞癌	12	消化管吻合部狭窄	3	高血圧	3
肝・総胆管癌	18	食道異物	1	心室頻拍	2
膵臓癌	32	食道炎	5	心アミロイドーシス	1
胆のう癌	6	マロリーワイス症候群	3	ブルガダ症候群	1
消化管神経内分泌腫瘍	3	毛細血管拡張症 GAVE	4	バージャー病	1
胃ポリープ	1	胃瘻造設	3	バーロー症候群	1
GIST	3	直腸潰瘍	2	人工血管感染	1
大腸ポリープ	115	消化管アニサキス症	1		
慢性肝障害	4	特発性細菌性腹膜炎	1	呼吸器(388例)	
自己免疫性肝炎	3	痔核	4	肺癌	100
肝嚢胞	1	嘔吐症	3	CO ₂ ナルコーシス	1
薬剤性肝障害	1	便秘	4	肺炎	91
アルコール性肝障害	9	腹痛症	6	誤嚥性肺炎	42
PBC	4	腹水	1	気管支炎	12
肝硬変	14	肝移植後	1	非結核性抗酸菌症	18
胃・食道静脈瘤	5			肺結核	8
肝膿瘍	2	循環器(256例)		新型コロナウイルス感染症	46
胆嚢炎	12	心不全	74	膿胸	1
胆管炎	31	狭心症	52	肺化膿症	2
総胆管結石	72	急性心筋梗塞	31	喘息	7
胆管狭窄	12	陳旧性心筋梗塞	1	COPD増悪	12
膵炎	15	A-Vブロック	15	気管支拡張症	1
IgG4関連硬化性胆管炎	2	ペースメーカー電池交換など	7	間質性肺炎	26
膵管胆管合流異常	1	心房細動	18	特発性肺線維症	1
イレウス	27	SSS	15	器質性肺炎	1
消化管出血	17	弁膜症	7	気胸・縦隔気種	9
出血性消化性潰瘍	10	心筋症	3	サルコイドーシス	3
腸炎	42	高血圧性心筋症	1	窒息	1
クローン病	3	無症候性心筋虚血	2	胸水	5
潰瘍性大腸炎	10	心外膜炎	1	喀血	1
虚血性大腸炎	16	心内膜炎	1		

腎臓（201例）

慢性腎不全	32
ネフローゼ症候群	5
腎盂腎炎	19
シャントトラブル	77
尿路感染	41
尿管結石	3
急性腎不全	10
IgA腎症	2
膜性腎症	2
ANCA関連腎炎	2
間質性腎炎	1
CAPD腹膜炎	4
出血性膀胱炎	1
気腫性膀胱炎	1
尿管瘻	1

血液（84例）

悪性リンパ腫	40
白血病	7
ATL	9
多発性骨髄腫	4
MDS	6
貧血	8
好中球減少症	4
特発性血小板減少性紫斑病	2
汎血球減少	3
血球貪食症候群	1

代謝（52例）

糖尿病	19
低血糖（DM）	7
糖尿病性ケトアシドーシス	3
高Na・低Na血症	12
高K・低K血症	5
高Ca・低Ca血症	2
偽痛風	3
乏症	1

神経（157例）

脳梗塞	71
TIA	12
脳出血	20
くも膜下出血	7
硬膜下血腫	3
内頸動脈狭窄	1
椎骨動脈解離	1
失神	5
てんかん・けいれん	10
眩暈	11
迷走神経反射	3
過呼吸症候群	1
顔面神経麻痺	1
進行性核上性麻痺	1
ウェルニッケ脳症	1
ギランバレー症候群	1
多発性硬化症	1
可逆性後頭葉白質脳症症候群	1
認知症	1
頭痛	1
頭部挫傷	3

感染症（67例）

発熱・不明熱	2
敗血症	16
带状疱疹	9
SFTS	3
ツツガムシ病	1
インフルエンザ	4
溶連菌感染	1
手足口病	1
破傷風	2
深在性真菌症	1
蜂窩織炎	14
扁桃炎	5
腸腰筋膿瘍	2
大腰筋膿瘍	1

股関節膿瘍	1
仙骨部膿瘍	1
化膿性関節炎	1
感冒	3

膠原病・内分泌（11例）

関節リウマチ	1
皮膚筋炎	1
MCTD	1
ベーチェット病	1
副腎不全	4
バセドウ病	1
亜急性甲状腺炎	1
SIADH	1

その他（62例）

薬物・農薬中毒	3
慢性アルコール中毒	3
急性アルコール中毒	2
熱中症	14
低体温症	1
脱水	14
溺水	1
廃用症候群	1
じんましん	1
アナフィラキシーショック	4
薬疹	2
特発性血管性浮腫	1
横紋筋融解症	4
ダンピング症候群	1
突発性難聴	2
うっ滞性皮膚炎	1
褥瘡	2
腰椎圧迫骨折	3
頸椎症	1
変形性膝関節症	1
前立腺癌	2

報告：五島中央病院精神科・神経科 新来患者統計：令和6年

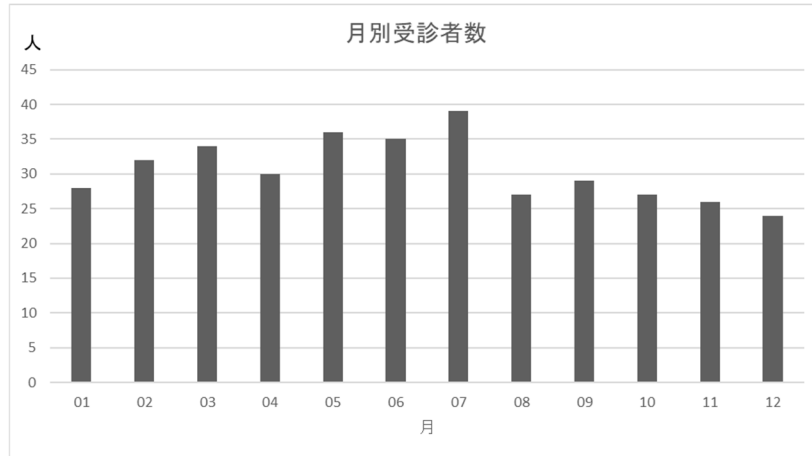
精神科・神経科 小田 孝

対象：令和6年1月1日から令和6年12月31日まで当科に新しく受診した患者

方法：カルテ記載に基づいた、年齢・性別・ICD-10に基づく精神科診断・住所・初診時入所施設・受診経路を調査

結果

1. 月別受診者数



2. 性別受診者数と初診時の年齢構成、平均年齢

	男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)
20歳未満	18	19	37
20～49歳	50	43	93
50～64歳	21	23	44
65～89歳	77	86	163
90歳以上	13	17	30
合計	179	188	367
平均(歳)	58.3	60.6	59.5
標準偏差(歳)	25.46	26.48	25.98

3. ICD-10に基づく精神科診断別受診者数

ICD-10/F	人	%
F0 症状を含む器質性精神障害	145	40.1
F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害	5	1.4
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	6	1.7
F3 気分障害	48	13.3
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	85	24.3
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	20	5.5
F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害	2	0.6
F7 知的障害	6	1.7
F8 心理的発達の障害	13	3.6
F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	6	1.7
G4 てんかん	8	2.2
診断保留	4	1.1
特に異常所見なし	11	3.1
小計	362	100.0
その他の診断		
正常圧水頭症	1	
ナルコレプシー	2	
資格のための健康診断	2	
小計	5	
合計	367	

4. 住所別受診者数

	人	%	令和2年人口	人口1万人対
旧福江市内	228	62.1	21,885	104.2
富江町	32	8.7	4,165	76.8
岐宿町	25	6.8	2,947	84.8
五島市	34	9.3	2,269	149.8
奈留町	17	4.6	1,950	87.2
玉之浦町	17	4.6	1,175	144.7
新上五島町	2	0.5	(国勢調査)	
長崎市	1	0.3		
上記除く長崎県内	1	0.3		
長崎県外	10	2.7		
合計	367	100.0		
*五島市合計	353	96.2	34391	102.6

5. 初診時入所施設別受診者数

	人	%
なし	287	78.2
院内入院中*	61	16.6
特別養護老人ホーム	7	1.9
養護老人ホーム	4	1.1
有料老人ホーム	4	1.1
グループホーム	3	0.8
生活支援ハウス	1	0.3
合計	367	100.0

*「院内入院中」の科別内訳

	人	%
内科	38	62.3
整形外科	15	24.6
外科	5	8.2
泌尿器科	2	3.3
耳鼻咽喉科	1	1.6
合計	61	100.0

7. 小・中・高校生別受診者数

	学年	男性(人)	女性(人)	合計(人)
中学校	1	2		2
	2		3	3
	3	1	1	2
高等学校	1	5	5	10
	2	2	3	5
	3	4	3	7
合計		14	15	29

6. 紹介経路別受診者数

	人	%
紹介なし	159	43.3
院内*	91	24.8
上五島病院・精神科	2	0.5
五島内開業医	42	11.4
五島内公立病院	15	4.1
長崎県内の公的病院・精神科	1	0.3
長崎県内の民間の精神科病院・医院	9	2.5
長崎県内の民間の他科病院・医院	3	0.8
県外の病院	15	4.1
特別養護老人ホーム	4	1.1
老人グループホーム	2	0.5
有料老人ホーム	4	1.1
養護老人ホーム	1	0.3
ケアマネージャー	5	1.4
若者サポートステーション	1	0.3
市役所福祉事務所	5	1.4
市役所国保健康政策課	1	0.3
包括支援センター	2	0.5
学校	2	0.5
警察	2	0.5
社会福祉協議会	1	0.3
合計	367	100.0

*院内からの紹介内訳

	人	%
内科	52	57.1
整形外科	15	16.5
物忘れ外来	6	6.6
外科	5	5.5
小児科	5	5.5
救急外来	3	3.3
耳鼻咽喉科	2	2.2
泌尿器科	2	2.2
脳神経外科	1	1.1
合計	91	100.0

令和6年度診療業務実績

1. 検査等件数実績

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
放射線	C T	5	572	624	610	591	631	631	600	606	651	591	535	598	7,240
		6	589	528	551	679	623	572	612	555	564	618	551	576	7,018
	MRI	5	224	261	276	254	237	226	231	242	239	237	242	228	2,897
		6	205	240	243	249	226	213	208	190	213	227	209	219	2,642
	心カテ	5	15	11	22	9	18	13	8	14	8	13	15	9	155
		6	8	4	11	11	8	9	0	2	12	14	13	18	110
ペースメーカー	5	3	1	3	3	1	0	2	4	1	2	3	0	23	
	6	3	3	1	5	1	5	5	4	6	2	2	2	39	
内視鏡	5	203	244	268	255	219	207	183	278	219	190	207	159	2,632	
	6	120	247	241	280	234	230	314	274	251	219	185	202	2,797	
栄養指導	入院	5	24	17	26	20	32	23	27	13	23	14	38	22	279
		6	51	14	41	15	17	17	18	10	12	16	49	20	280
	外来	5	54	55	43	52	57	47	60	48	60	50	28	49	603
		6	28	41	23	65	60	63	60	56	68	70	22	61	617
	計	5	78	72	69	72	89	70	87	61	83	64	66	71	882
		6	79	55	64	80	77	80	78	66	80	86	71	81	897
薬剤管理指導	5	194	231	238	269	221	194	222	220	200	260	272	254	2,775	
	6	223	262	241	267	261	276	290	282	277	290	319	313	3,301	
院外処方箋発行率(%)	5	92.7	93.0	92.7	93.0	92.9	93.4	93.3	93.9	92.8	93.7	93.5	93.6	93.2	
	6	93.2	93.4	93.5	93.7	92.8	93.6	93.9	94.1	93.1	93.7	93.0	93.2	93.4	
検査件数	入院	5	27,776	30,948	30,826	30,572	33,568	34,612	34,241	30,425	30,981	34,330	31,811	34,093	384,183
		6	28,258	28,951	24,491	34,869	32,374	26,504	27,129	24,171	28,987	31,680	29,981	28,932	346,327
	外来	5	80,524	76,269	83,005	79,429	84,944	80,448	86,299	81,320	81,981	82,877	80,082	80,235	977,413
		6	85,893	82,333	80,632	90,614	77,147	84,171	91,608	80,604	82,652	81,676	74,557	78,752	990,639
	計	5	108,300	107,217	113,831	110,001	118,512	115,060	120,540	111,745	112,962	117,207	111,893	114,328	1,361,596
		6	114,151	111,284	105,123	125,483	109,521	110,675	118,737	104,775	111,639	113,356	104,538	107,684	1,336,966
通院精神療法	5	1,035	1,103	1,054	1,071	1,079	947	1,100	1,045	1,027	979	982	1,026	12,448	
	6	1,029	1,084	984	1,115	936	942	1,068	989	1,015	958	861	989	11,970	
入院精神療法	5	52	75	64	56	63	39	62	38	33	63	60	49	654	
	6	54	43	23	73	27	66	70	46	80	78	67	71	698	
人工腎臓	4h未満	5	95	78	66	71	90	103	80	79	100	91	98	110	1,061
		6	102	84	51	69	77	76	87	62	57	52	43	45	805
	4h～5h	5	234	274	224	236	258	223	228	229	217	234	249	258	2,864
		6	230	236	267	297	276	251	272	278	286	300	305	301	3,299
	5h以上	5	17	21	23	14	19	15	13	14	17	21	20	27	221
		6	21	14	15	17	13	13	15	10	0	0	0	4	122
外来化学療法	5	79	82	93	76	78	67	70	73	60	59	52	45	834	
	6	59	58	48	71	73	69	71	47	59	69	66	61	751	
COVID-19検査	5	618	191	130	243	409	289	146	358	382	424	273	241	3,704	
	6	123	132	116	367	399	250	87	83	145	242	106	121	2,050	

2. リハビリ単位数

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳血管疾患等 リハビリテーション 料	5	468	532	322	425	338	427	416	356	456	425	351	508	5,024
	6	346	493	373	684	574	332	321	278	372	218	383	431	4,805
運動器 リハビリテーション 料	5	2,525	2,476	3,028	2,410	2,579	2,818	2,853	2,756	2,505	2,892	3,154	3,046	33,042
	6	2,964	3,195	2,951	2,770	2,735	2,861	3,276	3,115	2,825	3,108	3,201	3,012	36,013
呼吸器 リハビリテーション 料	5	222	182	187	142	234	248	255	251	404	363	326	349	3,163
	6	357	277	214	318	391	319	332	261	102	142	298	184	3,195
廃用症候群 リハビリテーション 料	5	432	664	797	808	667	909	965	868	857	744	691	699	9,101
	6	793	756	745	956	941	773	973	760	1,096	754	738	862	10,147
合計	5	3,647	3,854	4,334	3,785	3,818	4,402	4,489	4,231	4,222	4,424	4,522	4,602	50,330
	6	4,460	4,721	4,283	4,728	4,641	4,285	4,902	4,414	4,395	4,222	4,620	4,489	54,160

3. エコー件数

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	5	108	109	129	132	125	108	121	115	109	125	120	115	1,416
	6	111	120	125	152	135	108	146	113	116	113	109	119	1,467
循環器科(心エコー)	5	166	203	210	173	174	174	181	132	162	176	134	142	2,027
	6	146	118	148	221	144	161	172	134	180	158	137	159	1,878
人間ドック・健診	5	5	7	14	23	26	19	27	31	24	15	9	5	205
	6	6	15	32	44	40	34	48	36	33	17	12	2	319
小児科	5	3	1	3	1	4	5	6	4	2	3	6	6	44
	6	5	5	1	5	3	1	2	1	2	7	3	3	38
外科	5	32	33	29	28	35	32	62	27	31	39	27	33	408
	6	30	31	41	24	22	35	39	33	35	35	28	42	395
産婦人科	5	9	12	20	17	16	9	12	28	22	24	12	22	203
	6	36	42	61	49	57	53	50	47	66	67	59	52	639
妊婦健診	5	110	98	114	105	115	131	142	109	116	137	104	114	1,395
	6	98	125	129	127	116	72	99	106	131	202	192	171	1,568
耳鼻咽喉科	5	7	3	12	21	10	15	14	10	13	14	19	17	155
	6	15	18	9	13	11	11	11	6	10	9	9	15	137
泌尿器科	5	90	52	74	69	64	63	64	63	60	55	66	53	773
	6	30	14	12	5	20	12	11	16	17	11	12	9	169
計	5	510	453	525	567	570	484	507	556	551	533	499	503	6,258
	6	477	488	558	640	548	487	578	492	590	619	561	572	6,610

4. 加算等件数

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療安全対策加算	5	283	276	297	282	298	276	276	277	254	303	277	284	3,383
	6	281	253	263	338	304	281	274	252	247	300	275	269	3,337
医師事務作業補助体制加算	5	270	252	285	268	276	264	266	262	245	296	270	272	3,226
	6	0	0	254	332	296	274	264	251	244	294	267	270	2,746
検体検査管理加算2	5	252	302	285	275	314	280	302	285	283	299	306	321	3,504
	6	296	272	258	318	329	311	291	269	275	306	310	295	3,530
検体検査管理加算1	5	2,813	2,564	2,789	2,646	2,831	2,714	2,776	2,789	2,848	2,743	2,686	2,679	32,878
	6	2,834	2,760	2,710	2,920	2,695	2,722	2,910	2,649	2,734	2,630	2,413	2,516	32,493
外来迅速検体検査加算	5	6,393	5,993	6,162	6,314	6,885	6,316	7,207	6,852	7,108	7,062	6,845	7,019	80,156
	6	7,428	6,899	6,616	7,439	6,985	7,146	7,584	6,739	6,932	7,090	6,394	6,835	84,087
画像診断管理加算2	5	650	739	752	681	738	708	708	697	733	698	651	680	8,435
	6	663	641	652	780	714	654	693	622	642	697	633	650	8,041
画像診断管理加算1	5	30	48	48	77	90	91	108	70	56	66	45	56	785
	6	33	49	51	94	94	88	97	89	59	21	40	72	787
感染対策向上加算2	5	239	242	264	250	271	242	249	240	220	261	244	251	2,973
	6	250	232	234	292	265	249	239	219	218	273	248	236	2,955
急性期看護補助体制 加算 (25対1)	5	1,936	1,987	2,055	1,973	2,151	2,139	2,123	1,995	1,998	2,401	2,028	2,401	25,187
	6	1,981	2,028	1,865	2,384	2,209	2,137	2,114	1,960	2,093	2,289	2,164	2,166	25,390
看護補助加算2 (精神科)	5	620	737	719	779	613	563	593	596	838	825	763	732	8,378
	6	670	766	691	738	825	859	973	869	752	853	798	792	9,586

各診療科別年間手術症例数

対象期間：令和6年1月1日～令和6年12月31日

内科手術件数 619件

分類	手術名	件数
胸部	食道	7件
	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	2件
心・脈管	心、心膜、肺動静脈、冠血管、動脈、静脈気管等	19件
	経皮的冠動脈形成術	17件
	経皮的冠動脈ステント留置術	8件
	体外ペースメーカー	31件
	ペースメーカー移植術	7件
	ペースメーカー交換術	5件
	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	0件
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	0件
	動脈塞栓除去術	15件
	血管塞栓術	7件
	小腸結腸内視鏡的止血術	81件
	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	157件
	内視鏡的大腸ポリープ切除	4件
	内視鏡的大腸粘膜切除	16件
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	23件
	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	1件
	内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	36件
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	2件	
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	48件	
腹部	気管支	81件
	胃、十二指腸	81件
	大腸、腎臓	17件
	内視鏡的乳頭切開術	3件
	内視鏡的胆道ステント留置術	1件
	内視鏡的胆道結石除去術	3件
	経皮的胆管ドレナージ術	3件
	経皮的肝臓ドレナージ術	3件
	経皮経肝胆管ステント挿入術	8件
	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	6件
	内視鏡的膵管ステント留置術	0件
	下部消化管ステント留置術	3件
	内視鏡的結腸異物摘出術	3件
経皮的膵膵ドレナージ術	619件	
小計		

眼科手術件数 367件

分類	手術名	件数	
眼	結膜	1件	
	翼状片手術	1件	
	結膜下異物除去術	2件	
	結膜結石除去術	1件	
	眼瞼	マイボーム腺梗塞摘出術	1件
		麦粒腫切開術	0件
		眼窩内腫瘍摘出術(表在性)	0件
		先天性鼻涙管閉塞開放術	3件
		眼瞼内反症手術	2件
	ぶどう膜	10件	
	涙管チューブ挿入術(その他のもの)	3件	
	虹彩光凝固術	3件	
	角膜、強膜	34件	
	角膜、強膜異物除去術	17件	
	眼房、網膜	231件	
	網膜光凝固術	2件	
	硝子体	59件	
	硝子体茎頭微鏡下離断術	2件	
	硝子体再建術	2件	
	硝子体切除術	59件	
	後発白内障手術	367件	
	小計		

外科手術件数 272件

分類	手術名	件数	
胸部	乳腺	3件	
	乳腺悪性腫瘍手術	0件	
心・脈管	胸	3件	
	胸腔鏡下肺切除術	0件	
	胸腔鏡下試験切除術	13件	
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	0件	
	胸腔鏡下膵膵腔鏡手術	34件	
静脈	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用埋込型カテーテル設置	4件	
	中心静脈栄養用埋込型カテーテル設置	0件	
	下大静脈フィルター留置術	2件	
リンパ管、リンパ節	リンパ節摘出術	0件	
	リンパ節群郭清術(腋窩)	7件	
腹部	気管	0件	
	気管切開術	0件	
	気管異物除去術(直達鏡による)	0件	
	気管支異物除去術(直達鏡による)	4件	
	ヘルニア	28件	
	ヘルニア手術	2件	
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	0件	
	腹腔鏡下ヘルニア手術	3件	
	腹壁瘻手術(腹腔に通ずるもの)	1件	
	急性汎発性腹膜炎手術	3件	
胃、十二指腸	胃腸吻合術(ブラウン吻合含む)	3件	
	腹腔鏡下胃切除術	0件	
	腹腔鏡下胃全摘術	3件	
	腹腔鏡下胃腸吻合術	3件	
	腹腔鏡下胃局所切除術	3件	
	胃切除術	0件	
	胃全摘術(悪性腫瘍)	1件	
	胃切開術	1件	
	胃縫合術	0件	
	噴門側胃切除術(悪性腫瘍切除術)	10件	
	胃瘻造設術	7件	
	胆嚢、胆道	胆嚢摘出術	48件
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	0件
	胆管、腸管	胆管切開結石摘出術(胆嚢摘出含まない)	0件
		胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢に眼する)	0件
腸閉塞症手術		6件	
腸管癒着症手術		15件	
胆嚢外瘻造設術		0件	
腸間膜腫瘍摘出術(腸切除を伴わない)		0件	
腸吻合術		0件	
総胆管胃(腸)吻合術		0件	
胆管切開結石摘出術		0件	
腹腔鏡下小腸切除術		8件	
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術		0件	
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術		10件	
腹腔鏡下虫垂切除術		0件	
腹腔鏡下脾摘出術	0件		
眼局性腹腔腫瘍手術	5件		
経皮的腹腔腫瘍ドレナージ術	4件		
人工肛門造設術	0件		
人工肛門形成術	5件		
人工肛門閉鎖術	0件		
脾摘出術	1件		
直腸	直腸切除・切断術	2件	
	直腸脱手術	5件	
	腹腔鏡下直腸切除・切断術	0件	
	腹腔鏡下直腸脱手術	0件	
肛門、その周辺	肛門周囲膿瘍切開術	0件	
	肛門形成手術	0件	
	肛門ポリープ切除術	10件	
	痔核手術	2件	
	痔瘻根治手術	1件	
	腹腔鏡下尿管摘出術	0件	
腹腔鏡下肝嚢胞切開術	0件		
肝	肝切除術	0件	
小計			

整形外科手術件数 400件

分類	手術名	件数		
筋骨格系 ・四肢・体幹	筋膜、筋、 腱、腱鞘	腱鞘切開術	20件	
		筋膜切開術	1件	
		アキレス腱断裂手術	6件	
		骨折経皮的鋼線刺入固定術	8件	
	四肢骨	骨折観血の手術	145件	
		骨折非観血的整復術	30件	
		超音波骨折治療法	0件	
		骨内異物（挿入物）除去術	31件	
		手根管開放手術	1件	
		手、足、鎖骨	関節脱臼非観血的整復術	33件
	四肢関節、 靭帯	関節脱臼観血的整復術	3件	
		偽関節手術（鎖骨）	0件	
		ガングリオン摘出術（指・手）	2件	
		関節鏡下半月板切除術	5件	
		関節内骨折観血的手術	17件	
		人工骨頭挿入術	40件	
	四肢関節、 離断、再接合	人工関節置換術	26件	
		人工関節再置換術	1件	
		靭帯断裂縫合術	0件	
		縫合術	3件	
		四肢切断術	1件	
		断端形成術	9件	
	その他	骨移植術	4件	
		神経移行術	0件	
	神経系	抹消神経、 交感神経	直達牽引	2件
			一時的創外固定骨折治療術	7件
			神経剥離術（その他のもの）	5件
小計			400件	

産婦人科手術件数 65件

分類	手術名	件数			
性器	子宮 子宮付属器 外陰、会陰 膣	子宮全摘術	2件		
		子宮脱手術	0件		
		子宮頸管ポリープ切除術	7件		
		子宮付属器癒着剥離術（両側、腹腔鏡）	1件		
		子宮付属器悪性腫瘍手術	1件		
		子宮頸部摘出術	0件		
		腹腔鏡下膣式子宮全摘術	3件		
		バルトリン腺嚢胞腫瘍摘出術（造袋術含む）	0件		
		バルトリン腺膿瘍切開術	1件		
		その他	産科手術	帝王切開術	25件
				吸引焼出術	0件
				卵管結紮術	1件
				子宮付属器腫瘍摘出術	9件
				頸管裂縫合術	11件
流産手術	3件				
異所性妊娠手術（開腹）	1件				
陰壁形成手術	0件				
小計	65件				

泌尿器科手術件数 164件

分類	手術名	件数		
尿路系・副腎	尿管、精巣 その他	経尿道的尿管ステント留置術	104件	
		経尿道的尿管ステント抜去術	27件	
		経尿道的尿路結石摘出術	0件	
		経尿道的尿路結石除去術	0件	
		経尿道的前立腺核摘出術	0件	
		腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	0件	
		精巣摘出術	1件	
		包茎手術	3件	
		外尿道腫瘍切除術	0件	
		経尿道的電気凝固術	0件	
		尿管皮膚瘻造設術	0件	
		尿道狭窄内視鏡手術	0件	
		経尿道的尿管狭窄拡張術	0件	
		血管結紮術	1件	
	膀胱	膀胱異物摘出術（経尿道的手術）	1件	
		膀胱内凝血除去術	6件	
		膀胱結石摘出術	11件	
		膀胱脱手術	0件	
		膀胱悪性腫瘍手術	9件	
	心、脈管	動脈	内シャント設置術	0件
			その他	1件
	その他	陰囊水腫手術	1件	
	小計	164件		

耳鼻いんこう科手術件数 67件

分類	手術名	件数	
耳鼻咽喉	外耳 中耳 鼻 咽頭、扁桃	外耳道異物除去術	9件
		鼓膜チューブ挿入術	11件
		鼓膜切開術	12件
		鼻腔粘膜焼灼術	26件
		咽頭異物摘出術	9件
小計	67件		

その他 363件

分類	手術名	件数	
その他	その他	創傷処理	266件
		皮膚切開術	52件
		皮膚、皮下腫瘍摘出術	26件
		その他	19件
		小計	363件

救急患者搬送一覧

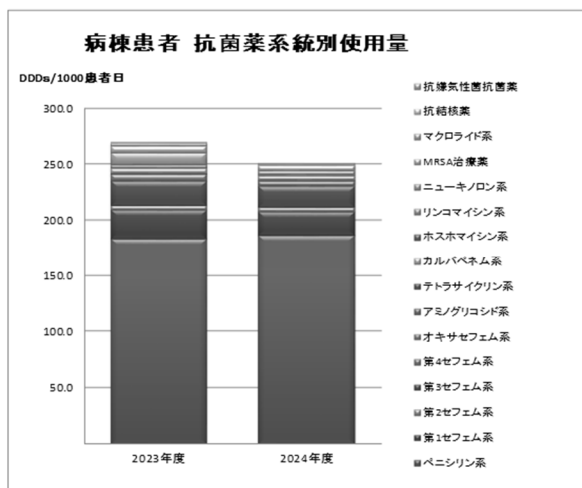
令和6年4月1日～令和7年3月31日

番号	月 日	病 名	移送先	移 送 方 法
1	4月4日	右被殻出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
2	4月16日	くも膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
3	5月1日	播種性血管内凝固、急性腎不全、右大腿蜂窩織炎、インフルエンザB型	長崎医療センター	県防災ヘリ
4	5月19日	常位胎盤早期剥離、帝王切開、29週3日、1382gで出生	長崎医療センター	県防災ヘリ
5	5月21日	左被殻出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
6	5月23日	新生児仮死	長崎医療センター	ドクターヘリ
7	6月19日	外傷性腎出血	長崎大学病院	ドクターヘリ
8	6月21日	くも膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
9	7月9日	全身3度熱傷	長崎医療センター	ドクターヘリ
10	7月22日	穿孔性腹膜炎	長崎大学病院	ドクターヘリ
11	7月22日	シャント破裂	長崎大学病院	ドクターヘリ
12	7月28日	慢性硬膜下血腫	長崎医療センター	県防災ヘリ
13	8月3日	溺水	長崎医療センター	海自ヘリ
14	8月8日	破傷風	長崎大学病院	海自ヘリ
15	8月11日	頭蓋内出血	長崎医療センター	海自ヘリ
16	8月20日	妊娠25週、常位胎盤早期剥離の疑い	長崎医療センター	ドクターヘリ
17	9月2日	外傷性脳出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
18	9月6日	後腹膜血腫	長崎大学病院	ドクターヘリ
19	9月20日	不安定狭心症	長崎医療センター	海自ヘリ
20	9月21日	早産（妊娠30週0日）	長崎医療センター	県防災ヘリ
21	9月25日	急性胆嚢炎	長崎医療センター	県防災ヘリ
22	10月2日	左被殻出血	長崎大学病院	海保船舶
23	10月12日	クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
24	10月15日	急性冠症候群	長崎大学病院	陸自ヘリ
25	10月21日	外傷性クモ膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
26	10月24日	心筋梗塞	長崎大学病院	ドクターヘリ
27	10月25日	心筋梗塞	長崎大学病院	ドクターヘリ
28	10月31日	切迫早産（妊娠30週）	長崎大学病院	ドクターヘリ
29	11月4日	慢性硬膜下血腫	長崎医療センター	ドクターヘリ
30	11月9日	急性冠症候群の疑い	長崎医療センター	海自ヘリ
31	11月20日	急性心筋梗塞	長崎医療センター	海自ヘリ
32	12月2日	不安定狭心症	長崎大学病院	ドクターヘリ
33	12月30日	転落、右脛骨高原骨折、L3圧迫骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
34	1月6日	心原性脳塞栓症	長崎大学病院	海保船舶
35	1月7日	慢性硬膜下血腫	長崎医療センター	ドクターヘリ
36	1月12日	急性大動脈解離	長崎大学病院	海自ヘリ
37	1月16日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
38	1月17日	第8胸椎腫瘍（悪性リンパ腫疑い）	長崎医療センター	ドクターヘリ
39	2月18日	呼吸停止	長崎医療センター	ドクターヘリ
40	2月20日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	海自ヘリ
41	2月26日	第11胸椎椎体骨折	長崎大学病院	ドクターヘリ
42	2月27日	喀血	長崎大学病院	海自ヘリ
43	3月8日	急性下肢虚血	長崎大学病院	海自ヘリ
44	3月20日	急性期脳梗塞	長崎医療センター	ドクターヘリ
45	3月29日	くも膜下出血	長崎医療センター	ドクターヘリ
46	3月30日	穿孔性腹膜炎	長崎医療センター	ドクターヘリ

2024年度 抗菌薬（注射薬）及び消毒薬の年間使用概況

1. 全入院患者での使用状況について

2024年度（2024年4月～2025年3月）における抗菌薬使用量を1000患者日あたりの抗菌薬使用密度（antimicrobial use density：AUD）で集計し、抗菌薬の使用状況について前年度との比較を行った。



抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	145.0	145.3	+0.3
② PIPC/TAZ (タゾピペ)	34.8	33.0	-1.7
③ CEZ (セファゾリン)	26.3	21.1	-5.3
④ CTRX (セフトリアキソン)	16.6	15.7	-1.0
⑤ ABPC (ピクシリン)	2.3	8.0	+5.7

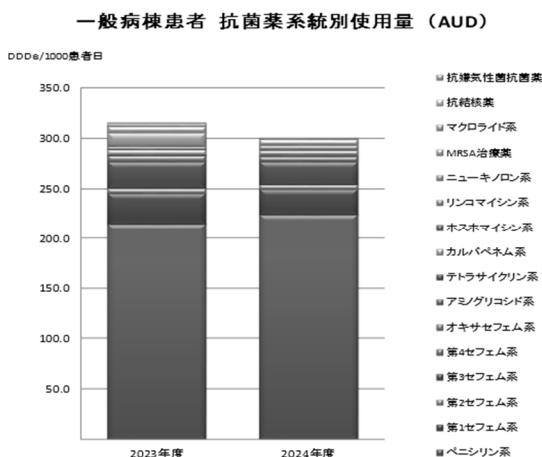
抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	183.0	186.4	+3.4
② 第1セフェム系	26.3	21.1	-5.3
③ 第3セフェム系	22.1	19.1	-3.0
④ MRSA治療薬	6.1	4.6	-1.5
⑤ 第4セフェム系	5.8	4.2	-1.6

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	67.8%	74.4%	+6.6%
② 第1セフェム系	9.8%	8.4%	-1.3%
③ 第3セフェム系	8.2%	7.6%	-0.6%
④ MRSA治療薬	2.3%	1.8%	-0.4%
⑤ 第4セフェム系	2.2%	1.7%	-0.5%

全入院患者の年間 AUD は 250.4（前年比 -19.4）と減少していた。薬剤別 AUD ではスルバシリン注（前年比 +0.3）が最も多く、次いでタゾピペ、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系（前年比 +3.4）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第3世代セフェム系の順となった。昨年度と比較し、ニューキノロン系の使用量が落ちていた。これは使用量の多かった整形外科、泌尿器科の医師の異動が一因ではないかと考える。使用比率はペニシリン系 74.4%（前年比 +6.6%）、第1世代セフェム系 8.4%、第3世代セフェム系 7.6%となった。

2. 一般病棟患者での使用状況について

精神科患者を除く一般病棟患者の年間 AUD は 300.9（前年比 -15.0）だった。薬剤別 AUD や抗菌薬系統別 AUD、使用比率については全入院患者と同様の傾向であったが、AUD の値では全入院患者の場合よりも値が大きくなった。これは精神科患者では抗菌薬の使用頻度が少なく、一般病棟患者では抗菌薬の使用頻度が多いことを反映していると考えられる。



抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	169.8	174.5	+4.7
② PIPC/TAZ (タゾピペ)	41.1	39.8	-1.3
③ CEZ (セファゾリン)	31.1	25.4	-5.7
④ CTRX (セフトリアキソン)	19.6	18.7	-0.9
⑤ ABPC (ピクシリン)	2.7	9.7	+7.0

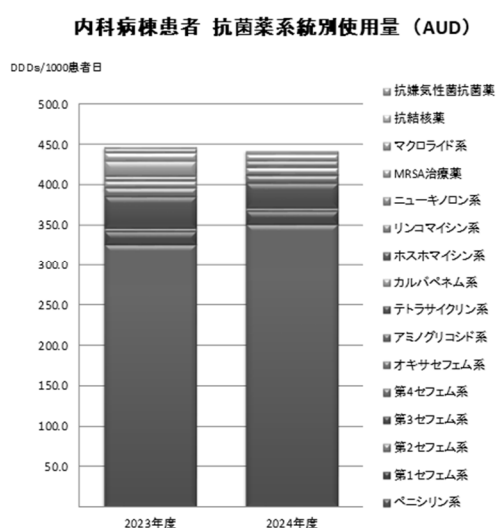
抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	214.7	224.0	+9.3
② 第1セフェム系	31.1	25.4	-5.7
③ 第3セフェム系	26.0	22.8	-3.2
④ MRSA治療薬	6.5	5.5	-1.1
⑤ 第4セフェム系	6.5	5.0	-1.4

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	68.0%	74.4%	+6.5%
② 第1セフェム系	9.8%	8.4%	-1.4%
③ 第3セフェム系	8.2%	7.6%	-0.7%
④ MRSA治療薬	2.1%	1.8%	-0.3%
⑤ 第4セフェム系	2.0%	1.7%	-0.4%

3. 各診療科（入院患者）の使用状況について

A. 内科（入院患者）

内科の年間AUDは440.9（前年比 -5.9）と前年度から減少した。薬剤別AUDではスルバシリン注が290.9（前年比+23.2）と昨年度同様最も高く、次いでタゾピペ注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別AUDではペニシリン系（前年比+24.9）が最も多く、次いで第3世代セフェム系、第1世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系79.6%（前年比+6.6%）、第3世代セフェム系7.0%、第1世代セフェム系3.8%となった。



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	267.7	290.9	+23.2
② PIPC/TAZ (タゾピペ)	57.3	53.5	-3.8
③ CTRX (セフトリアキソン)	30.3	26.0	-4.3
④ CEZ (セファゾリン)	16.0	17.0	+0.9
⑤ CFPM (セフェム)	10.8	9.0	-1.8

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

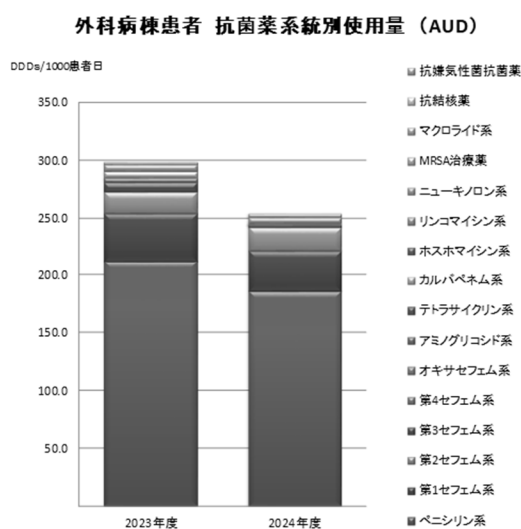
抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	326.0	350.9	+24.9
② 第3セフェム系	38.9	30.9	-8.0
③ 第1セフェム系	16.0	17.0	+0.9
④ 第4セフェム系	10.8	9.0	-1.8
⑤ MRSA治療薬	10.6	8.0	-2.5

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	73.0%	79.6%	+6.6%
② 第3セフェム系	8.7%	7.0%	-1.7%
③ 第1セフェム系	3.6%	3.8%	+0.3%
④ 第4セフェム系	2.4%	2.0%	-0.4%
⑤ MRSA治療薬	2.4%	1.8%	-0.5%

B. 外科（入院患者）

外科の年間AUDは253.5（前年比 -44.6）に減少した。薬剤別AUDではスルバシリン注が110.7（前年比 -20.1）で最も多く、次いでタゾピペ注、セファゾリン注の順となった。抗菌薬系統別AUDではペニシリン系（前年比 -25.9）が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第2世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系73.3%（前年比+2.3%）、第1世代セフェム系14.0%、第2世代セフェム系8.3%となった。



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ABPC/SBT (スルバシリン)	130.9	110.7	-20.1
② PIPC/TAZ (タゾピペ)	79.0	75.1	-3.8
③ CEZ (セファゾリン)	42.0	35.5	-6.4
④ CMZ (セフメタゾール)	16.1	20.2	+4.1
⑤ LVFX (レボフロキサシン)	6.0	5.2	-0.7

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	211.8	185.9	-25.9
② 第1セフェム系	42.0	35.5	-6.4
③ 第2セフェム系	18.7	20.2	+1.5
④ ニューキノロン系	6.0	5.2	-0.7
⑤ MRSA治療薬	2.1	2.9	+0.8

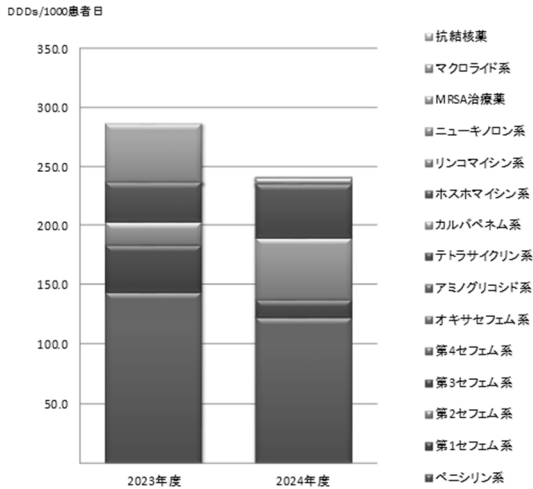
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	71.0%	73.3%	+2.3%
② 第1セフェム系	14.1%	14.0%	-0.1%
③ 第2セフェム系	6.3%	8.0%	+1.7%
④ ニューキノロン系	2.0%	2.1%	+0.1%
⑤ MRSA治療薬	0.7%	1.1%	+0.4%

C. 泌尿器科 (入院患者)

泌尿器科の年間AUDは241.5(前年比 -45.1)に減少した。薬剤別AUDではタゾピペ注が122.3(前年比 +98)で最も多く、次いでセフメタゾール注、セフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別AUDではペニシリン系(前年比 -21.4)が最も多く、次いで第2世代セフェム系、第3世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系50.6%(前年比 +0.5%)、第1世代系セフェム系21.6%、第1世代系セフェム系19.2%となった。

泌尿器科病棟患者 抗菌薬系統別使用量 (AUD)



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① PIPC/TAZ (タゾピペ)	14.1	112.1	+98.0
② CMZ(セフメタゾール)	18.8	46.6	+27.8
③ CTRX (セフトリアキソン)	34.4	23.5	-10.9
④ CTX(クラフォラン)		22.8	+22.8
⑤ PIPC (ペントシリン)		9.3	+9.3

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	143.7	122.3	-21.4
② 第2セフェム系	18.8	52.2	+33.4
③ 第3セフェム系	34.7	46.3	+11.6
④ 第1セフェム系	40.1	15.1	-25.1
⑤ カルバペネム系		5.0	+5.0

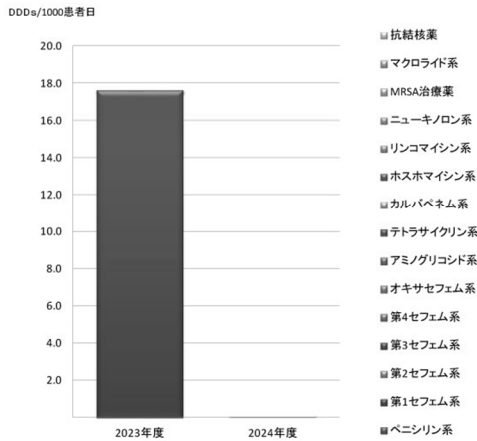
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① ペニシリン系	50.1%	50.6%	+0.5%
② 第2セフェム系	6.6%	21.6%	+15.1%
③ 第3セフェム系	12.1%	19.2%	+7.1%
④ 第1セフェム系	14.0%	6.2%	-7.8%
⑤ カルバペネム系	0.0%	2.1%	+2.1%

D. 眼科 (入院患者)

眼科の抗菌薬注射の使用はなかった。

眼科病棟患者 抗菌薬系統別使用量 (AUD)



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① CTRX (セフトリアキソン)	16.8	空白または0	-16.8
② SBT/CPZ(ワイスタール)	0.4	空白または0	-0.4
③ CTX(クラフォラン)	0.4	空白または0	-0.4
④ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① 第3セフェム系	17.6	空白または0	-17.6
② 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
③ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
④ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

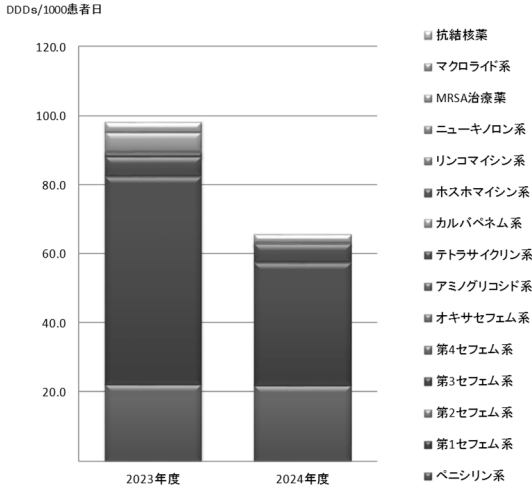
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
① 第3セフェム系	100.0%	空白または0	空白または0
② 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
③ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
④ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤ 空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

E. 整形外科 (入院患者)

整形外科の年間 AUD は 67.2 (前年比-31.8) と減少した。薬剤別 AUD ではセファゾリン注が 35.6 (前年比 -24.5) で最も多く、次いでスルバシリン注、タゾピペ注の順となった。抗菌薬系統別 AUD では第 1 世代セフェム系が最も多く、次いでペニシリン系、第 3 世代セフェム系の順となった。使用比率は第 1 世代セフェム系 52.9% (前年比 -7.8%)、ペニシリン系が 32.4%、第 3 世代セフェム系が 5.2%となった。

整形外科病棟患者 抗菌薬系統別使用量 (AUD)



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	CEZ (セファゾリン)	60.1	35.6	-24.5
②	ABPC/SBT (スルバシリン)	16.9	14.4	-2.4
③	PIPC/TAZ (タゾピペ)	5.4	6.1	+0.7
④	CTRX (セフトリアキソン)	5.6	4.2	-1.4
⑤	VCM (バンコマイシン)	2.9	2.4	-0.6

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	第1セフェム系	60.1	35.6	-24.5
②	ペニシリン系	22.3	21.8	-0.5
③	第3セフェム系	5.6	5.2	-0.4
④	MRSA治療薬	2.9	2.4	-0.6
⑤	抗嫌気性菌抗菌薬	0.6	1.7	+1.0

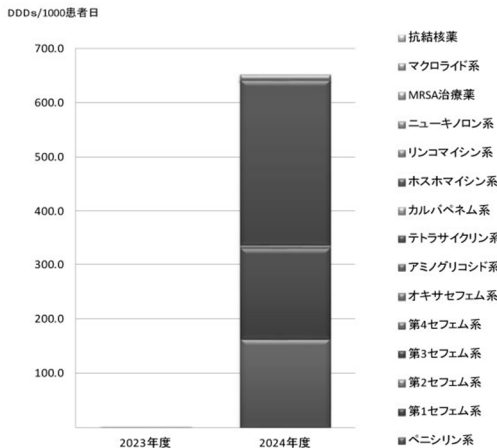
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	第1セフェム系	60.7%	52.9%	-7.8%
②	ペニシリン系	22.5%	32.4%	+9.9%
③	第3セフェム系	5.7%	7.8%	+2.1%
④	MRSA治療薬	3.0%	3.5%	+0.6%
⑤	抗嫌気性菌抗菌薬	0.6%	2.5%	+1.9%

F. 耳鼻咽喉科 (入院患者)

耳鼻科の年間 AUD は 651.7 となった。薬剤別 AUD ではセフトリアキソン注が 306.4 で最も多く、次いでセファゾリン注、スルバシリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD では第 3 世代セフェム系が最も多く、次いで第 1 世代セフェム系、ペニシリン系の順となった。使用比率は第 3 世代セフェム系 47.0%、第 1 世代セフェム系が 25.8%、ペニシリン系が 25.1%となった。

耳鼻科病棟患者 抗菌薬系統別使用量 (AUD)



薬剤別AUD (DDD_s/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	CTRX (セフトリアキソン)	空白または0	306.4	空白または0
②	CEZ (セファゾリン)	空白または0	168.4	空白または0
③	ABPC/SBT (スルバシリン)	空白または0	95.2	空白または0
④	PIPC/TAZ (タゾピペ)	空白または0	68.0	空白または0
⑤	CLDM (クリンダマイシン)	空白または0	9.0	空白または0

抗菌薬系統別AUD (DDD_s/1000患者日)

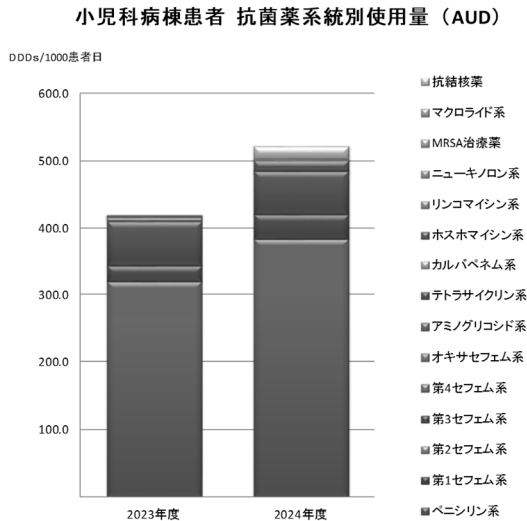
	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	第3セフェム系	空白または0	306.4	空白または0
②	第1セフェム系	空白または0	168.4	空白または0
③	ペニシリン系	空白または0	163.3	空白または0
④	リンコマイシン系	空白または0	9.0	空白または0
⑤	第2セフェム系	空白または0	4.7	空白または0

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	第3セフェム系	空白または0	47.0%	空白または0
②	第1セフェム系	空白または0	25.8%	空白または0
③	ペニシリン系	空白または0	25.1%	空白または0
④	リンコマイシン系	空白または0	1.4%	空白または0
⑤	第2セフェム系	空白または0	0.7%	空白または0

G. 小児科 (入院患者)

小児科の年間 AUD は 521.7 (前年比 +102.5) と増加した。薬剤別 AUD ではピクシリン注が 312.7 (前年比 +213.7) で最も多く、次いでクラフォラン注、スルバシリン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系 (前年比 +64.5) が最も多く、次いで第3世代セフェム系、第1世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系が 73.5% (前年比 -2.6%)、第3世代セフェム系が 12.2%、第1世代セフェム系が 7.1% となった。



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ABPC (ピクシリン)	98.9	312.7	+213.7
②	CTX(クラフォラン)	45.6	56.5	+10.9
③	ABPC/SBT (スルバシリン)	195.6	70.9	-124.7
④	CEZ (セファゾリン)	24.2	37.2	+13.0
⑤	VCM (バンコマイシン)		18.8	+18.8

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

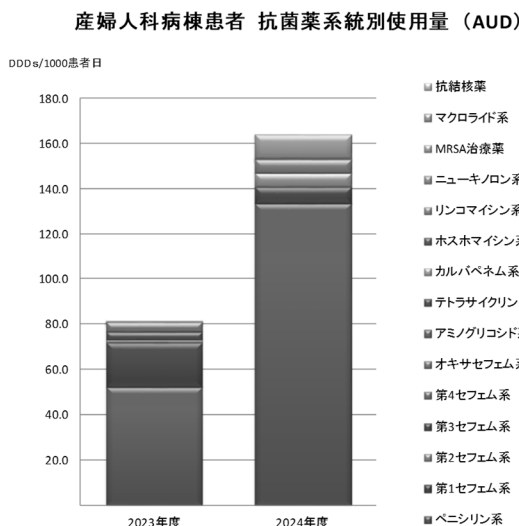
	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	319.1	383.6	+64.5
②	第3セフェム系	66.8	63.8	-3.0
③	第1セフェム系	24.2	37.2	+13.0
④	MRSA治療薬		18.8	+18.8
⑤	テトラサイクリン系		16.1	+16.1

抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	76.1%	73.5%	-2.6%
②	第3セフェム系	15.9%	12.2%	-3.7%
③	第1セフェム系	5.8%	7.1%	+1.4%
④	オキサセフェム系	1.4%	0.0%	-1.4%
⑤	アミノグリコシド系	0.4%	0.0%	-0.4%

H. 産婦人科 (入院患者)

産婦人科の年間 AUD は 163.9 (前年比 +81.6) と増加した。薬剤別 AUD ではスルバシリン注が 103.4 (前年比 +85.2) で最も多く、次いでピクシリン注、クリンダマイシン注の順となった。抗菌薬系統別 AUD ではペニシリン系 (前年比 +81.6) が最も多く、次いで第1世代セフェム系、第4世代セフェム系の順となった。使用比率はペニシリン系が 81.6% (前年比+17.3%)、第1世代セフェム系が 4.6%、第4世代セフェム系が 3.7% となった。



薬剤別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ABPC/SBT (スルバシリン)	18.2	103.4	+85.2
②	ABPC (ピクシリン)		29.4	+29.4
③	CLDM (クリンダマイシン)		10.5	+10.5
④	CEZ (セファゾリン)	19.7	7.4	-12.3
⑤	CMZ(セフメタゾール)	1.1	6.1	+5.0

抗菌薬系統別AUD (DDDs/1000患者日)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	52.1	133.7	+81.6
②	第1セフェム系	19.7	7.4	-12.3
③	第4セフェム系	4.4	6.0	+1.7
④	第3セフェム系	3.6		-3.6
⑤	カルバペネム系	0.2		-0.2

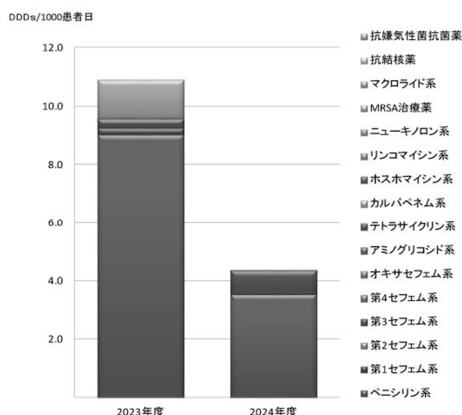
抗菌薬系統別使用比率 (%AUD)

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	64.3%	81.6%	+17.3%
②	第1セフェム系	24.3%	4.5%	-19.7%
③	第4セフェム系	5.4%	3.7%	-1.7%
④	第3セフェム系	4.5%	0.0%	-4.5%
⑤	カルバペネム系	0.2%	0.0%	-0.2%

I. 精神科（入院患者）

精神科の年間AUDは4.4（前年比 -6.5）に減少した。薬剤別AUDではスルバシリン注が3.5（前年比 -5.5）で最も多く、次いでセフトリアキソン注の順となった。抗菌薬系統別AUDではペニシリン系が81.0%（前年比-1.9%）、第3世代セフェム系が19.0%となった。

精神科病棟患者 抗菌薬系統別使用量（AUD）



薬剤別AUD（DDDs/1000患者日）

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ABPC/SBT（スルバシリン）	9.0	3.5	-5.5
②	CTRX（セフトリアキソン）	0.3	0.8	0.5
③	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
④	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

抗菌薬系統別AUD（DDDs/1000患者日）

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	9.0	3.5	-5.5
②	第3セフェム系	0.3	0.8	0.5
③	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
④	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

抗菌薬系統別使用比率(%AUD)

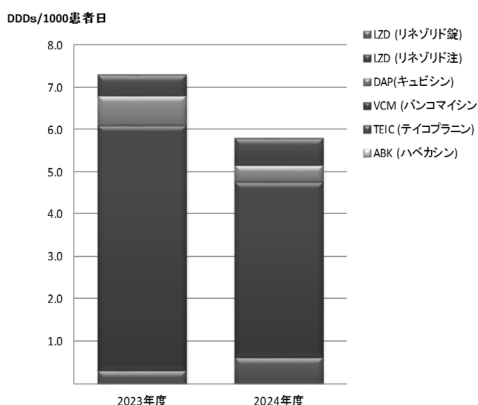
	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	ペニシリン系	82.9%	81.0%	-1.9%
②	第3セフェム系	2.8%	19.0%	+16.3%
③	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
④	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0
⑤	空白または0	空白または0	空白または0	空白または0

4. MRSA 治療薬の使用状況について

全入院患者におけるMRSA治療薬の年間AUDは5.7（前年比-1.6）に減少した。薬剤別AUDではバンコマイシン注4.1（前年比 -1.7）、リネゾリド注0.6（前年比 +0.1）、テイコプラニン注0.6（前年比 +0.3）となった。

バンコマイシン点眼液等、外用薬の抗MRSA薬の処方数はなかった。

全入院患者 MRSA治療薬使用量（AUD）



全入院患者薬剤別AUD（DDDs/1000患者日）

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	VCM（バンコマイシン）	5.8	4.1	-1.7
②	LZD（リネゾリド注）	0.5	0.6	+0.1
③	TEIC（テイコプラニン）	0.3	0.6	+0.3
④	DAP（キュビシン）	0.7	0.4	-0.3
⑤				

全入院患者抗MRSA外用薬使用本数（本）

	抗菌薬	2023年度	2024年度	前年比
①	バンコマイシン点眼液2.5%	0	0	±0
②	バクトロバン鼻腔用軟膏	0	0	±0

5. 消毒薬の使用状況について

アルコール手指消毒剤と液体石鹸の年間請求量を使用回数に換算し、これを患者在院日数で除して「1入院患者に関わる病院スタッフが1日に行う手指衛生回数」を算出した。請求量から算出した手指衛生回数（手洗い+アルコール消毒）は全病棟18.1回（前年度17.2回）、2階病棟8.5回（前年度7.8回）、3階南病棟16.5回（前年度24.4回）、4階北病棟25.0回（前年度24.2回）、4階南病棟20.6回（前年度18.3回）、5階北病棟0回（前年度15.5回）、5階南病棟19.8回（前年度17.2回）であった。5北病棟は2023年12月まで、3南病棟は2024年1月からの集計となっている。

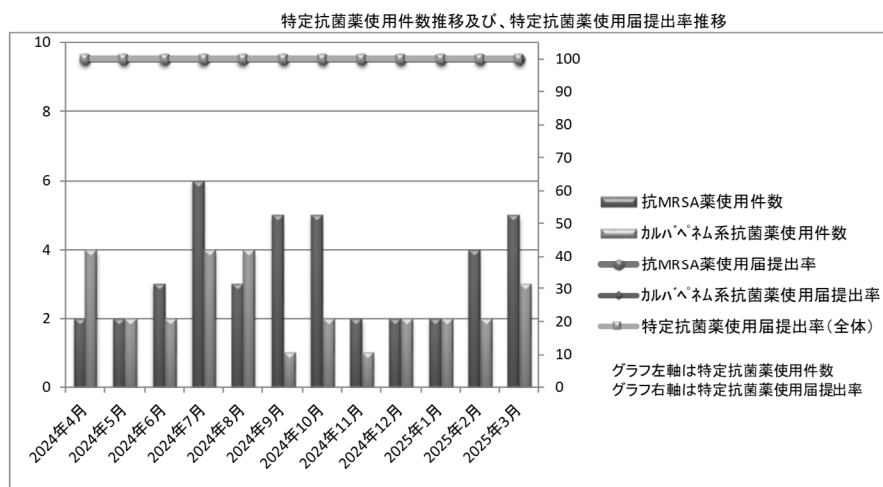
昨年度と比べ、全病棟の手指衛生回数は増加した。病棟別にみると3階南病棟を除く病棟で手指衛生回数が増加といった状況であった。アルコールによる手指消毒回数をみると、3階南病棟を除く全病棟で増加していた。アルコール製剤の手指消毒目標回数10回/日を達成したので、来年度は15回/日を目標に手指衛生の推進を行っていく。



病棟	2階		3南		4北		4南		5北		5南		全病棟	
年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
手洗い	2.3回	1.7回	7.7回	7.0回	10.7回	10.9回	10.6回	10.9回	8.3回	#DIV/0!	8.6回	9.2回	8.3回	8.0回
アルコール	5.6回	6.8回	16.6回	9.5回	13.5回	14.0回	7.8回	9.8回	7.2回	#DIV/0!	8.6回	10.7回	8.9回	10.1回
合計	7.8回	8.5回	24.4回	16.5回	24.2回	25.0回	18.3回	20.6回	15.5回	#DIV/0!	17.2回	19.8回	17.2回	18.1回

6. 特定抗菌薬の使用状況について

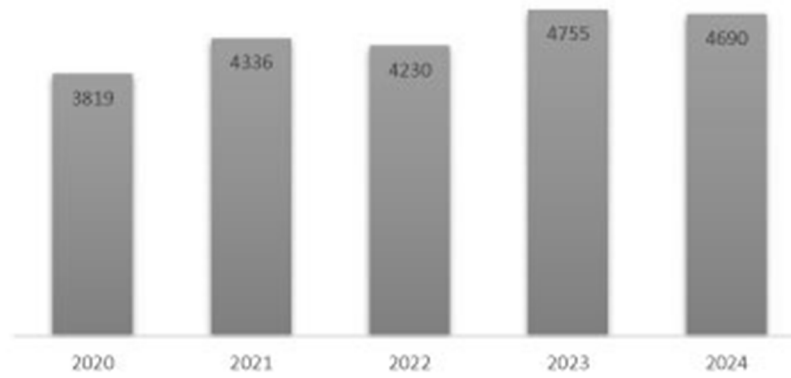
2024年度の特定抗菌薬使用状況は年間の合計でカルバペネム系抗菌薬が29件（前年比-1件）、抗MRSA薬41件（前年比-1件）となった。月平均での使用件数はカルバペネム系抗菌薬が約3件（前年比±0件）、抗MRSA薬が約4件（前年比+0件）であった。又、特定抗菌薬使用届提出率は100%を維持した。



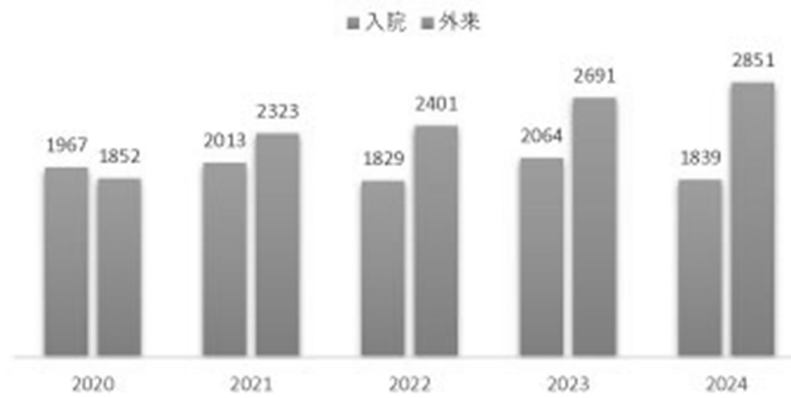
当院の微生物検査の動向

1. 当院細菌検査年間検査検体数

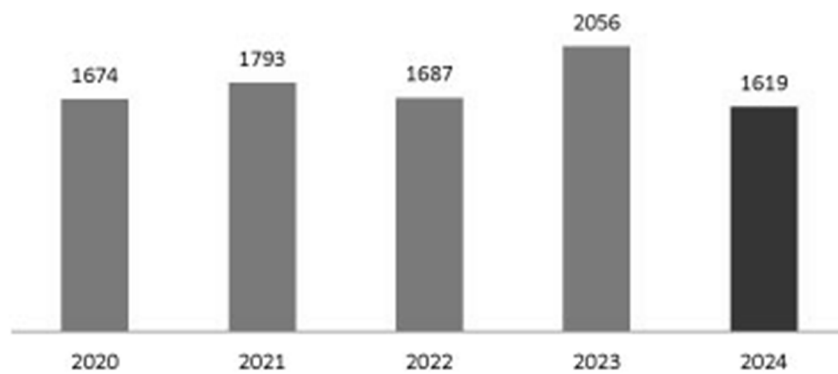
検査検体数



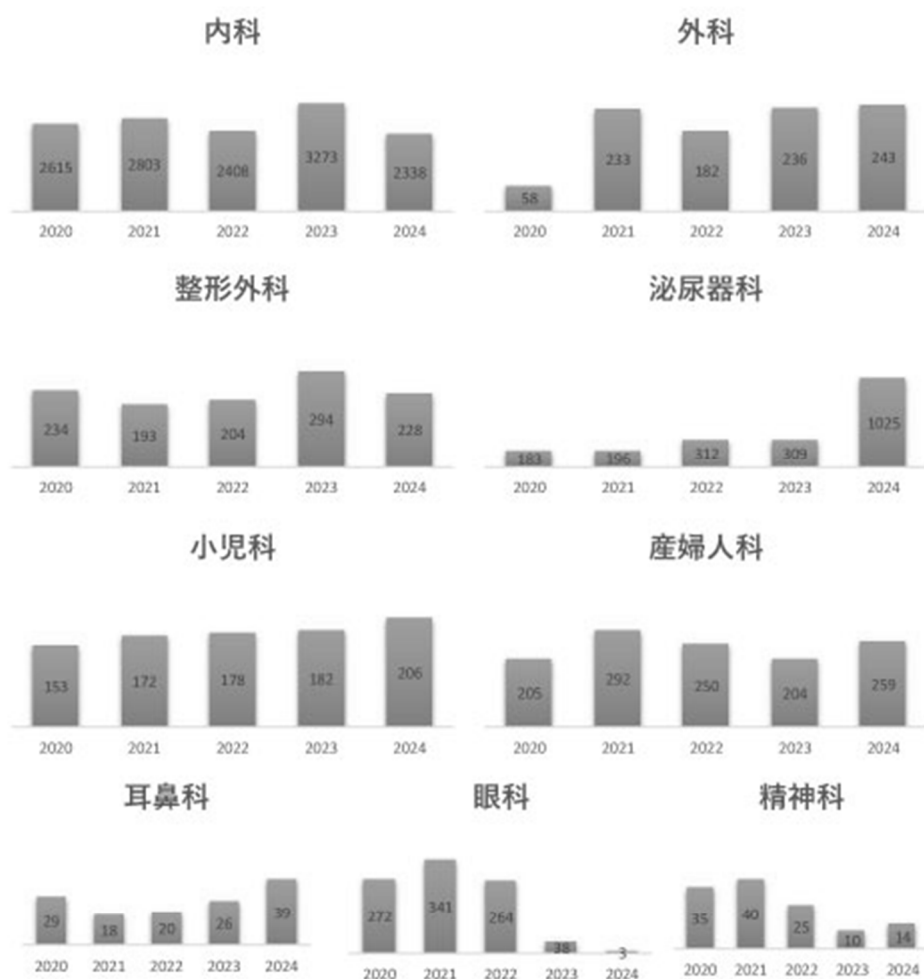
年度別検体数内訳



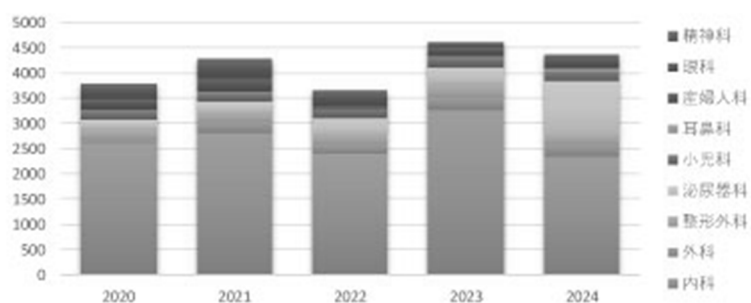
血液培養件数



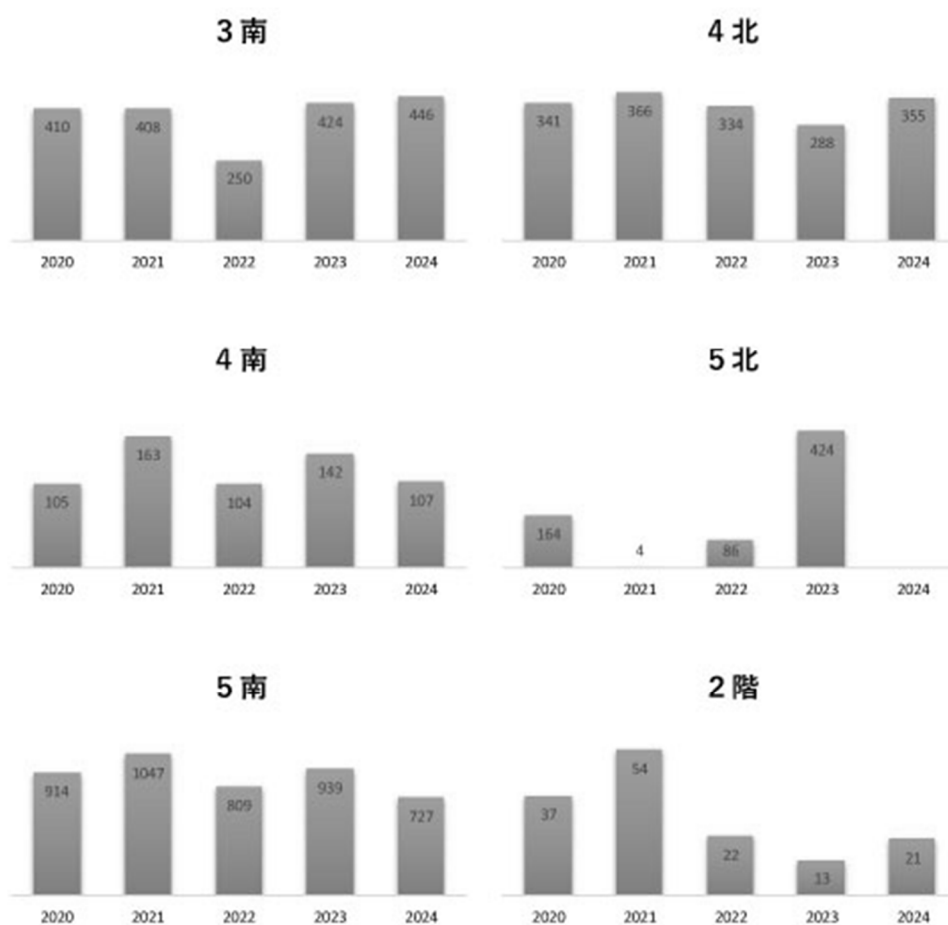
2. 診療科別検体数



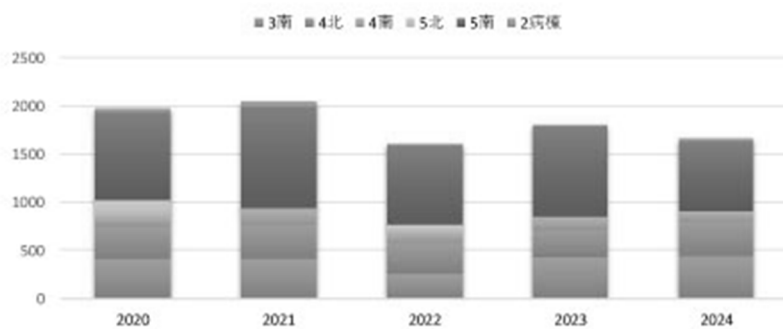
診療科別検体数



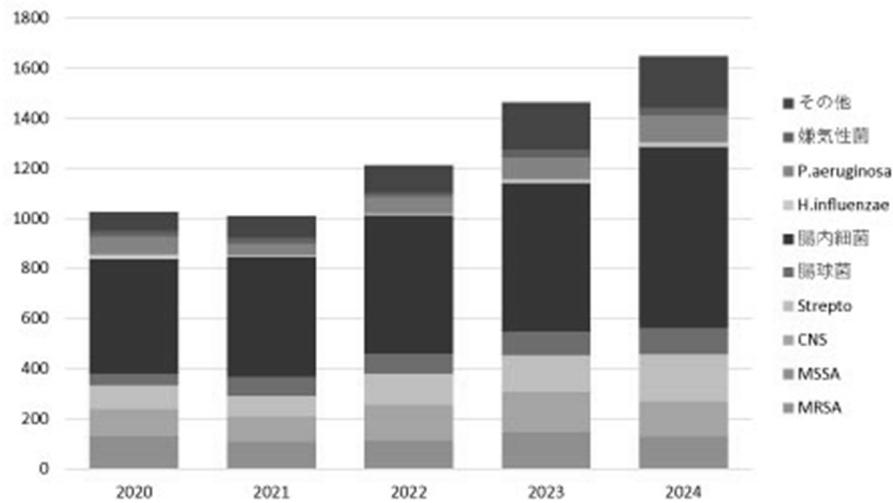
3. 病棟別検体数



年度別検体数



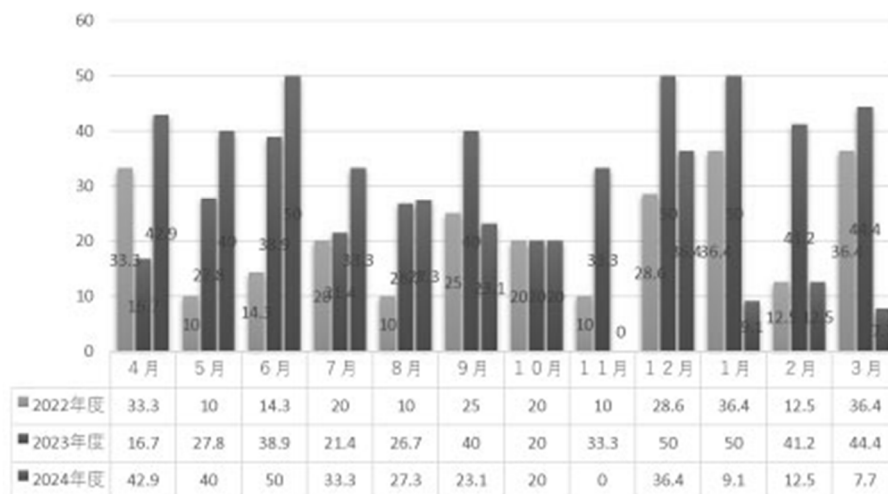
4. 分離菌の年度別推移



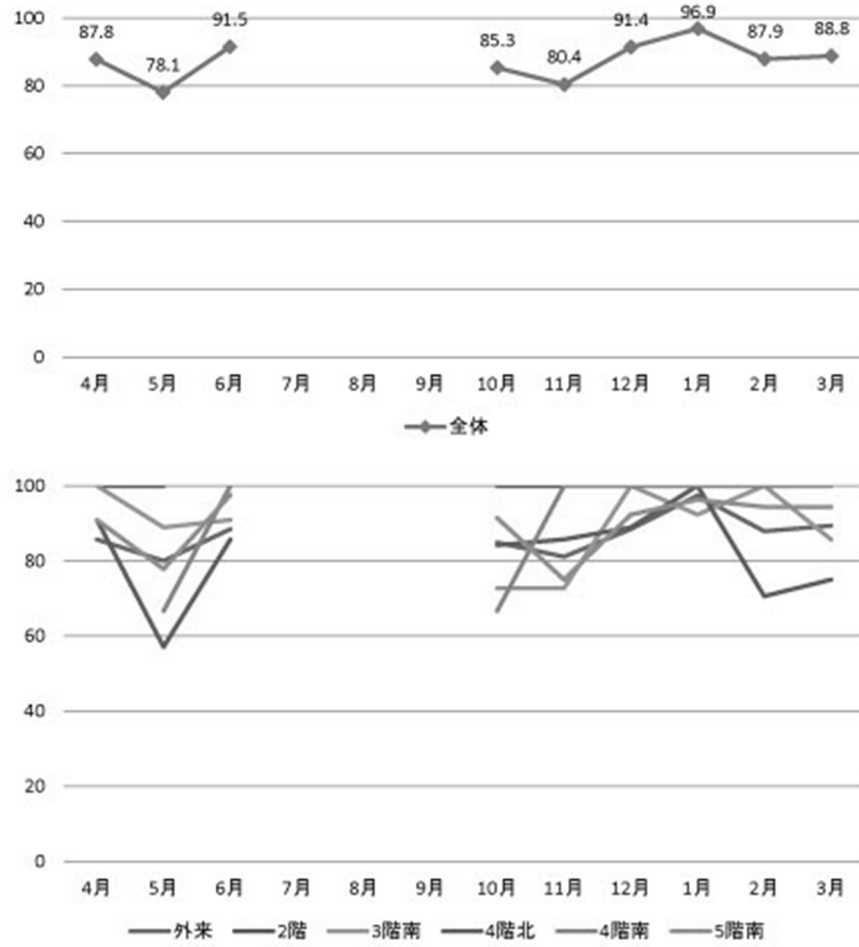
5. MRSA 数

黄色ブドウ球菌(S.aureus)におけるMRSAの割合

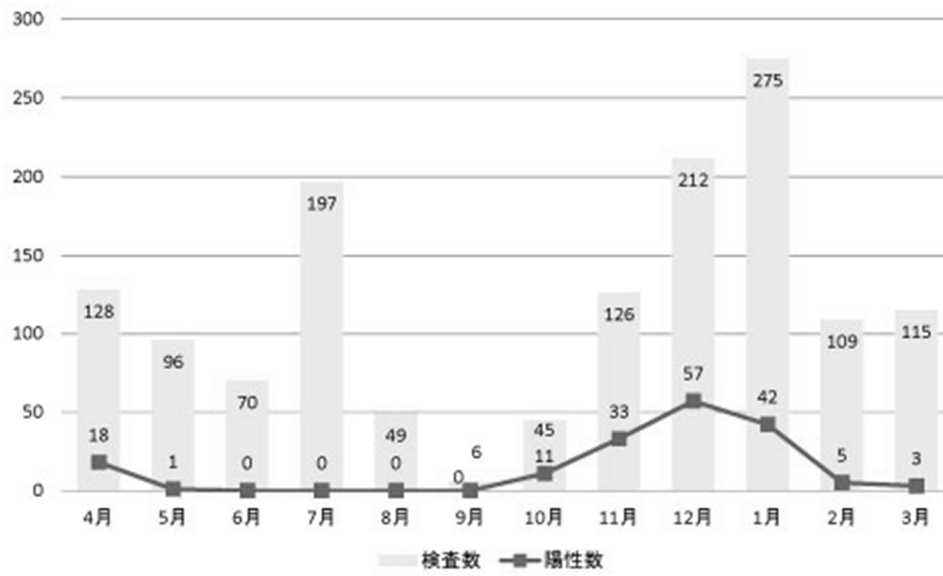
MRSA%(MRSA/MRSA+MSSA)



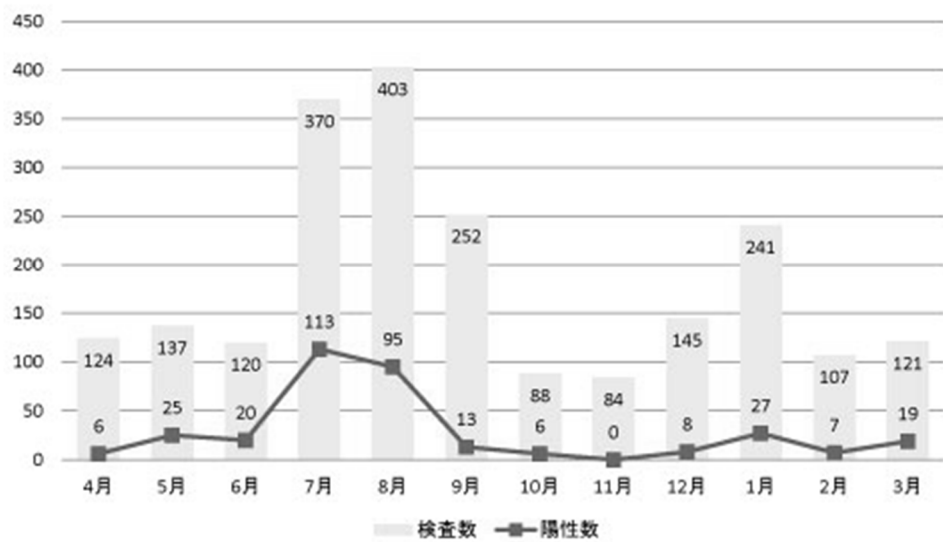
6. 血培養複数セット採取率



7. インフルエンザ



8. 新型コロナウイルス



9. インフルエンザ

グラム陽性球菌																
菌名	株数	PCG	ABPC	ABPC/SBT	CEZ	GM	ABK	EM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	DAP	RFP	LZD
S.aureus (全て)	129	40%	40%	75%	76%	86%	99%	63%	64%	100%	68%	100%	100%	100%	98%	100%
MRSA	31	0%	0%	0%	0%	87%	97%	14%	14%	100%	23%	100%	100%	100%	97%	100%
MSSA	98	53%	52%	99%	100%	86%	100%	79%	80%	100%	83%	100%	100%	100%	99%	100%
E.faecalis	66	100%	100%	-	-	-	-	30%	-	29%	97%	100%	100%	100%	38%	100%
E.faecium	24	38%	42%	-	-	-	-	15%	-	71%	33%	100%	100%	100%	21%	100%
S.epidermidis	56	14%	14%	45%	45%	54%	-	56%	73%	96%	38%	100%	95%	100%	96%	100%

グラム陽性レンサ球菌																		
菌名	株数	ABPC	PCG	CTX	CTRX	CFPM	CZOP	MEPM	EM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	AMPC/CV	ST	RFP	CP
S.pneumoniae	12	-	100%	83%	83%	100%	83%	75%	30%	30%	50%	-	83%	100%	100%	92%	100%	100%
S.pyogenes	8	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-	-	-	100%
S.agalact-Gr B	60	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	61%	56%	56%	72%	55%	100%	-	-	-	88%

■ :感受性率:0~50% ■ :感受性率51~70%

グラム陰性桿菌																		
菌名	株数	ABPC	CEZ	CTM	CTX	CAZ	CFPM	CPDX-PR	CMZ	MEPM	ABPC/SBT	AMPC/CVA	PIPC/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX
E.coli(全て)	342	69%	73%	81%	81%	83%	82%	78%	99%	100%	79%	94%	98%	98%	100%	92%	74%	73%
E. coli	295	80%	85%	93%	93%	94%	94%	91%	100%	100%	84%	95%	99%	98%	100%	95%	84%	83%
E. coli ESBL	47	0%	0%	4%	4%	15%	4%	0%	96%	100%	51%	87%	94%	96%	100%	79%	11%	11%
K.pneumoniae	132	8%	86%	95%	95%	97%	96%	95%	97%	99%	78%	95%	97%	99%	100%	87%	98%	98%
K.oxytoca	35	0%	11%	94%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	71%	94%	94%	100%	100%	97%	100%	100%
S. marcescens	27	4%	0%	0%	-	41%	93%	22%	78%	100%	11%	4%	56%	93%	100%	85%	100%	93%
K. aerogenes	27	15%	4%	26%	67%	74%	96%	63%	4%	100%	56%	4%	85%	100%	100%	100%	100%	100%
E. cloacae	26	23%	8%	15%	85%	85%	92%	42%	19%	100%	38%	15%	92%	96%	100%	92%	100%	92%
P.mirabilis	46	93%	85%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	17%	100%	78%
C. freundii	15	27%	0%	33%	67%	73%	93%	27%	60%	93%	47%	7%	87%	93%	100%	80%	80%	73%

菌名	株数	PIPC	CAZ	CZOP	CFPM	IPM/CS	MEPM	DRPM	AZT	PIPC/TAZ	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	CL
Pa.aeruginosa	109	87%	92%	91%	90%	93%	100%	98%	77%	92%	74%	100%	-	95%	97%	-	91%
S. maltophilia	11	-	0%	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	100%	73%	0%	91%	-
Ac.baumannii	17	79%	100%	79%	82%	94%	94%	-	-	-	71%	88%	94%	100%	82%	94%	86%

菌名	株数	ABPC	CTM	CTX	CTRX	CFPM	CCL	CDTR-PI	MEPM	AMPC/CVA	ABPC/SBT	CAM	MINO	LVFX	CPFX	ST	RFP
H.influenzae	18	78%	83%	100%	100%	100%	94%	100%	100%	94%	89%	94%	100%	100%	100%	94%	100%
M. catarrhalis	8	43%	100%	100%	100%	100%	86%	100%	100%	100%	86%	86%	86%	100%	100%	71%	86%

■ :感受性率:0~50% ■ :感受性率51~70%

五島中央病院紀要投稿規定

1. 本誌は五島中央病院の機関誌として年1回発行とする。
2. 投稿者は当院の職員とする。但し当院職員以外のものであっても編集委員会の承諾を得た場合はこの限りではない。
3. 投稿論文は医学、薬学、看護学など医療に関係のある学術論文で、他誌に発表されていないものとする。
4. 本誌の内容は総説、研究、症例報告、学術年報（学会・研究会発表及び掲載論文：同年の1月～12月に発表～発行されたもの）、及びその他（随想など）とする。
5. 投稿原稿の採否並びに順位は編集委員会で決定する。
6. 原稿は和文、欧文を問わない。
7. 編集の都合により原文の要旨を変えない範囲内で著者に訂正を求めることがある。
8. 掲載料は無料とし別冊は著者に10部を贈呈する。それ以上の別冊は実費を徴収する。
9. 原稿執筆の要項は次のとおりとする。
 - (1) 原稿は別々の用紙を用いて次のように区分する。

タイトルページ、和文用紙（400字以内）、本文、文献、図（写真）及び表（いずれも手札型以上の大きさ）、図及び表の説明で構成し、要旨にはキーワード（5個以内）を入れる。
 - (2) 本文は原則として、1. はじめに、2. 方法（症例）、3. 結果、4. 考察、5. まとめの各項目に区分する。
 - (3) 原稿は横書き和文ワードプロセッサ（A4用紙20字×20行）で作成する。

その際、専門用語以外は当用漢字、年号は西暦、数字は算用数字、薬品名は一般名、現代仮名遣いを使用し、句読点を正しくつける。FDでの提出も受け付ける。
 - (4) 表はA4用紙に1頁1表ずつとする。
 - (5) 論文の長さは図表を含めて下記を限度とし、規定枚数を越えた原稿は採用しない。

総説：400字×30枚、研究：400字×25枚、症例：400字×20枚、その他：400字×20枚
 - (6) 文献は本文中に引用されたもののみを別紙に一括し、本文中の引用箇所に引用順に肩番号をつける。

（例）神田¹⁾らの報告では・・・
 - (7) 文献の書き方は引用番号、著者名、題名、雑誌名、巻：頁（始頁-終頁）、発行年（西暦）の11頂で記載する。
 - (8) 単行本は引用番号、著者名、書名、（編集者名）、発行所名、発行年（西暦）、頁（始頁-終頁）、の順に記載する。
 - (9) 著者校正は1回のみとし、その際大幅な訂正は不可とする。
 - (10) 学会や研究会などで発表した論文を投稿される場合は、文末にその旨付記する。

原稿提出先：

〒853-0031 長崎県五島市吉久木町205番地 長崎県五島中央病院
五島中央病院紀要編集委員会
Tel：0959-72-3181
Fax：0959-72-2881

五島中央病院紀要 第27号

発行 令和8年3月31日

編集・発行 五島中央病院紀要編集委員会
〒853-0031
長崎県五島市吉久木町205番地
Tel : 0959-72-3181
Fax : 0959-72-2881

印刷 合同会社メディアウェブ
〒853-0017
長崎県五島市武家屋敷1-5-35
TEL : 0959-74-1030

